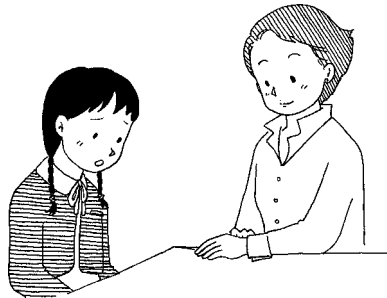


H教諭は、最近周囲の顔色をうかがっているような様子で見られるIさんの様子が気になって、声をかけた。しかし、Iさんは、H教諭に話すことをためらっているようだった。そこでH教諭は、スクールカウンセラーに話してみることを勧めたが、Iさんはそれにもあまり積極的な反応を示さなかった。H教諭から話を聞いていたスクールカウンセラーは、Iさんに、気軽に声をかけ、相談室に雑談に来るよう誘っていた。しばらくするとIさんは相談室を訪れ、本を読んだりゲームをしたりするようになった。

数ヶ月たったころ、Iさんは、「自分はみんなから嫌われていると思う。しかし、このことで悩んでいることは先生や友達には知られたくない。」ということスクールカウンセラーに打ち明けた。スクールカウンセラーは、Iさんの「先生に知られたくない。」という思いに配慮しながら、学級での様子をそれとなく見た。その中で、Iさんがはっきり意思表示をしないことで、友達から敬遠されていることが分かってきた。そこで、H教諭に、意図的にIさんが活躍できそうな場面を設けたり、

Iさんが意見を言う場面を作ったりするよう助言した。数週間後、相談室でも、Iさんから友達の話が聞かれるようになった。



スクールカウンセラーは、相談室で個別の相談を受けるのが仕事と思われがちですが、それだけではありません。スクールカウンセラーも学校の職員の一人です。校内組織に位置付け、相互に連携をとりながら活動を進めていくことで、有効な活用を図ることができます。

スクールカウンセラーを活用する校内体制の整備

① 相互に意思の疎通を図る

学校としてスクールカウンセラーに期待すること、スクールカウンセラーが活躍しやすい体制はどのようなものか、知り得た情報をどうするかなどをまずよく話し合い、意思の疎通を図ります。

② 相互連携の体制を整える

相談室に来た子だけを相手にする、面倒な事例は相談室に押し付けるなどということがないように、教師とスクールカウンセラーが互いに援助し合い、連携して子供の状態の把握や悩みの解消に当たる体制を整えます。

スクールカウンセラーが授業を参観したり、休み時間に校庭で子供たちに声をかけたり、直接話す機会を作っていくことも有効な手段です。

スクールカウンセラーを紹介する広報活動

新しい職種であり、はじめは子供や保護者も抵抗があることが予想されます。ですから、行事や集会など多くの人が集まる機会にスクールカウンセラーを紹介したり、相談室便りなどを発行してスクールカウンセラーの仕事などを知らせたりすることが必要です。

とかく教師は学級の悩みを一人で抱え込みがちですが、スクールカウンセラーに話を聞いてもらうことや心理職の立場から助言をもらうことで、心の負担が軽くなることもあります。